

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価」
(最終評価)

大阪市立天下茶屋幼稚園

令和 7 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本園は、季節に咲く木や花、ザリガニの生息する池、季節ごとに野菜を栽培・収穫できる畑、広くて見渡しのよい園庭と自然豊かな環境に恵まれた園である。
- 園児は、素直で人懐こい子どもが多い。兄弟のいる家庭も多い。保護者は愛情をもって子育てをしている反面、ゆっくり一人の子どもとかかわる時間をとることに難しさもあるようだ。
- 地域は温かく、幼稚園教育にもご理解・ご協力いただいている。高齢化や核家族化がみられ、家庭以外のさまざまな人と関わる機会が減ってきている。幼稚園での集団生活を通して、環境を生かした直接体験を重ね、幼児期に必要な道徳性や規範意識などを芽生え育んでいきたい。
- 遊びの中から好奇心や探求心を高め、感じたことを自分なりに表現したり、誰かに伝えたいという気持ちを大切に、思いを出し合い伝えようとしたりするなど、人とかかわる力をはぐくみ、互いを認め合えるようになることを願いながら、心豊かに、心も体もたくましく生活するための教育活動を実践する。
- 防災、安全教育を工夫し、一人一人が命を大切にする意識が高まるように推進する。
- 自ら健康で安全な生活を送れるように指導を工夫し、生涯に必要な生活習慣の自立につなげる。
- 引き続き感染症拡大予防に努め、幼児期に大切な教育活動をすすめて、保護者や地域、近隣学校などに園児の様子を発信し、子育て支援の役割や小学校以降の学びにつながるよう取り組む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、安全に関する指導・実践に取り組んでいる」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、安全に関する意識をもつようになった」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に喜んで通っている」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、遊びを通して、意欲や探求心・好奇心をもつように取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で「子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、基本的な生活習慣が身に付いた」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、絵本や物語などに興味関心をもてるよう教育活動に取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で「子どもは、絵本や物語などに興味関心をもつようになった」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、いろいろな人に親しみ、あこがれや思いやりの気持ちがもてるよう取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。
- 令和7年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、地域や家庭に子どもの姿や育ちなど幼稚園の教育活動を発信している」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 今年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、安全に関する指導・実践に取り組んでいる」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。
- 今年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、安全に関する意識をもつようになった」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。
- 今年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に喜んで通っている」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 今年度末の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、遊びを通して、意欲や探求心・好奇心をもつように取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。
- 今年度末の本園保護者アンケート調査で「子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。
- 今年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、基本的な生活習慣が身に付いた」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 今年度末の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、絵本や物語などに興味関心をもてるよう教育活動に取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。
- 今年度末の本園保護者アンケート調査で「子どもは、絵本や物語などに興味関心をもつようになった」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。
- 今年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、いろいろな人に親しみ、あこがれや思いやりの気持ちがもてるよう取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。
- 今年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、地域や家庭に子どもの姿や育ちなど幼稚園の教育活動を発信している」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

年度末の保護者アンケートでは、すべての項目において肯定的回答の割合が目標を上回り、高評価を維持することができた。安心・安全を第一に、保護者も一緒に日々の取り組みや、地域の方によるお茶会、小学校や保育所との交流などを継続したことで、子どもたちと教師が一緒に豊かな経験をすることができた。保護者や地域の方と子どもの育ちを共有しながら幼稚園教育を進めることにつながった。今年度、小学校教員が幼稚園展覧会を参観してくださったことで教員間で幼稚園教育を発信する新たな一歩となった。今年度の成果と課題を踏まえ、次年度以降も地域、近隣小・中学校・保育所との連携を工夫し、子どもが主体的に遊びから学びへと向かい、安心して就学につなげられるよう保育実践に努め、全教職員の共通理解を深め、一人一人の子どもを大切に、教育の充実に取り組んでいきたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、安全に関する指導・実践に取り組んでいる」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、安全に関する意識をもつようになった」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に喜んで通っている」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>災害発生時に、子どもが自ら危険を回避できるよう主体的に行動する態度を育成するとともに、訓練を通して保護者と連携する。</p> <hr/> <p>指標 ・避難訓練をする（火災・地震・津波・不審者侵入）：月1回以上</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>一人一人が安心して自分の良さを発揮できるような保育をすすめる。</p> <hr/> <p>指標 ・幼児理解の情報を共有：週に1回以上</p> <p>・保育の打ち合わせ：週に1回以上</p> <p>・園内委員会の実施：学期に1回以上</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①・昨年度の反省を基に、各クラスの今の子どもの実態に合わせて災害発生の想定を考え、避難訓練を実施した。また、訓練中の子どもの姿を教職員間で共有したことで、より安全な避難方法や、次回の訓練における各クラスのねらいを具体的に考えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚教材や翻訳アプリを活用して、どの子どもにもわかりやすく避難方法について指導した。訓練後に子どもと振り返りをしたことで、訓練中の具体的な姿を元に避難の仕方を再確認し、安全への意識を高めたり、よりよい避難方法を考えたりすることができた。 ・保護者への引き渡し訓練を実施し、連絡方法を確認したり、うまく連絡ができなかった保護者と別の方法を話し合ったりすることができた。また、保護者に毎月の避難訓練のねらいや子どもの姿を知らせたことで、それぞれの家庭で安全について考える機 	

会となり防災意識につながったようだ。

- 取組内容②・保育の打ち合わせを週に1回以上行い、子どもが安心、安全に保育に参加できる体制や環境づくりについて話し合ったことで、教員の資質向上にもつながった。
- ・週に1回以上、降園後に子どもの姿や有効な関わり方等の情報を共有し、多面的に実態把握や幼児理解ができるように努めたことで、子どもたちが安心して園生活を過ごし、一人一人が良さを発揮しようとする姿が見られた。
 - ・教育研修会（5回）、巡回相談（2回・臨床心理士）では、個々への指導の手立て等を専門的な視点から学ぶ機会となった。教師が子どもへの指示を分かりやすく伝えたり、次の活動への見通しがもてるように、視覚で残り時間が分かる「タイムタイマー」を利用したりしたことで、子どもたちが主体的に活動に参加する姿が見られた。教師が一人一人の個性を理解し、継続した援助をしたことで安心して自己発揮する姿へ繋がった。
 - ・学期に1回の園内委員会では、子どもの育ちや課題、環境を話し合い、行事の参加の仕方や援助の仕方、個々のねらいや育ちを教員間で細やかに伝え合ったりしたことで、次学期に向けての取り組み方を共通理解する場となった。

次年度への改善点

- 取組内容①・訓練後の反省で、訓練中の子どもの姿や教職員の動きを共有し、緊急時の子どもの姿を予想したうえで、教職員間で柔軟に連携して一人一人の子どもの安全を確保できるようにする。
- ・保護者と共に子どもの安全を守ることができるように、園で取り組んでいる避難訓練の様子やねらい、また日々の保育で安全面に配慮しているところを簡潔に伝える。
- 取組内容②・引き続き、変化している子どもの実態に合わせた保育を進められる環境（物的・人的）をつくり、子どもに寄り添った支援や援助を行っていく。
- ・研修会や巡回相談で学んだことを教職員それぞれが実践したり、有効な関わり方や支援を共有したりし、子どもたちが安心して過ごせるようにする。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p><u>学校園の年度目標</u></p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、遊びを通して、意欲や探求心・好奇心をもつように取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で「子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で、「子どもは、基本的な生活習慣が身に付いた」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムにおける知・徳・体の視点や教育的配慮を保育指導案に明記し、子どもたちのバランスよい育ちにつなげる。</p> <hr/> <p>指標・就学前教育カリキュラムに基づき、子どもたちが楽しみながら体を動かせるような体操や遊びを考える：月1回以上</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>望ましい生活習慣が身に付くように発達段階に応じた指導をする。</p> <hr/> <p>指標・発達段階や子どもの実態に合わせ、保健指導を行う：月に1回以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣に関する興味・関心が深まるように家庭啓発を行う：月に1回以上 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①・クラスの子どもの実態に合わせた教育的意図をもった働きかけを、就学前教育カリキュラムを参考にしながら毎日の保育指導案に明確に記入した。また、それを知・徳・体に分類することで、3つの視点の偏りなく、働きかけができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や子どもの実態に合わせて体操やなかよし遊びを選び、日々の保育の中で親しんだ。集会や誕生会、運動会、なかよし発表会などの機会に全園児で行うことで、教師や友達、保護者と一緒に体を動かす楽しさを味わい、好きな遊びの時間にも子どもが自ら体操やダンスをする姿が見られるようになった。 ・異年齢で園庭に出る時間を合わせることや、子どもの姿に合わせて遊具の用意の 	

仕方を担任同士で話し合ったことで、異年齢児の姿に興味をもって関わるようになり、一緒に遊びを楽しむことができた。また、異年齢児に刺激を受けて、遊びを真似たり、挑戦したりする姿も見られ、いろいろな遊びに意欲的に取り組むようになった。

取組内容②・毎月保健指導を行い、その指導内容を降園連絡やホームページを使って保護者に発信し、家庭でも生活習慣が定着できるよう取り組んだ。また、保健指導の内容を各クラスの実態に沿うよう養護教諭と担任が相談して共通理解し、保育の中で継続的に指導したことで、個人差はあるが生活習慣が身に付いた。

- ・ 5歳児が使用する手洗い場に鏡を設置したことで、鏡に向かって大きな口を開け、一本ずつ意識して磨く姿が見られた。また、自分の口の中を観察しながら歯みがきの絵をかいたことで、更に歯と口の健康への興味関心が高まり、生涯にかけて健康な体づくりへの意識につながったと考える。
- ・ 今年初めて、5歳児は西成区役所にて6月に開催された「食育月間の取組」に参加した。また、食生活に興味をもてるよう、園で栽培・収穫した野菜を持ち帰った際に記述式のアンケートを配布した。「家では食べなかったが、園で自分で採った野菜は食べてくれた」「実った様子を見て『やったー』と収穫を楽しみにしている」「〇〇料理にしたら、美味しい美味しいと食べた」などの感想が寄せられた。その感想を園内に掲示したり、収穫の様子をホームページに掲載したりして保護者に発信したことで、園での栽培・収穫が食育への足掛かりとなり、家庭への食育指導となった。

次年度への改善点

取組内容①・日々の保育の振り返りを丁寧に行い、引き続き具体的な教育的意図をもった働きかけを考え、実践する。

- ・ 集会や行事に限らず、日々の保育の中でも一緒に遊べる機会や場を用意し、子ども同士の刺激や教員の保育力向上につなげる。

取組内容②・引き続き、望ましい生活習慣が身に付くように、保健指導や家庭啓発を行い幼稚園と家庭で連携をとる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p><u>学校園の年度目標</u></p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、絵本や物語などに興味関心をもてるよう教育活動に取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で「子どもは、絵本や物語などに興味関心をもつようになった」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、いろいろな人に親しみ、あこがれや思いやりの気持ちをもてるよう取り組んだ」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p> <p>○今年度末の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、地域や家庭に子どもの姿や育ちなど幼稚園の教育活動を発信している」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を、80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>子どもが絵本に親しんだり、お家の人と一緒に読み聞かせを楽しんだりして、イメージや言葉を豊かにする。</p> <hr/> <p>指標 ・えんだよりを活用し、保護者への啓発をする：月1回以上 ・お家の人と読み聞かせの機会をつくる：月1回以上</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>地域に親しみをもち、進学への期待を高めて学びへの接続がなめらかになるよう交流をする。</p> <hr/> <p>指標 ・施設訪問：年3回以上 ・幼小等交流：年5回以上 ・教員の参観交流：年1回以上</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>幼稚園教育に親しみがもてるよう取り組みを工夫し、家庭・地域等と連携を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・保護者への情報発信：年10回以上 ・地域への発信：月1回以上</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①・毎月末に「ふれあい絵本の日」や毎週末に絵本貸出の日、保育の中でも子どもたちが絵本を見たり、読んだりする機会を設けている。保護者に読み聞かせをしてもらう機会や子どもたちが絵本を見る機会がたくさんあることで、好きな本を見</p>	

つけたり、家で絵本を読んでもらった話をしたりし、子どもたちが絵本に親しんでいる姿が見られた。

- ・外国にルーツがある子どもも、より絵本を楽しめるように、外国語で書かれた絵本を用意している。ふれあい絵本の機会に、保護者が母国語で書かれた本を子どもに読み聞かせしてくださることで、子どもたちがより喜んで絵本を見たり、話に入り込んで楽しんだりする姿が見られた。また、他の子どもも外国語で書かれた絵本に興味をもって読む姿があり、多言語への関心も見られた。
- ・毎月のえんだよりに、「おすすめ絵本」を掲載し、その絵本を玄関に展示したことで、子どもも保護者も立ち止まって手にしたり、手軽に触れて見たりでき、絵本にあまり興味がなかった子どもも絵本に親しむ姿が見られた。また、保護者が絵本を選ぶ際の参考にもなっているようで、家庭で絵本を読み聞かせようという意識につながった。
- ・絵本やお話に親しみ、劇遊び等で、それぞれにイメージを膨らませながら表現遊びを楽しむ姿が見られた。絵本やお話ごっこを通じてこれまで知らなかった言葉を知ることや語彙を増やす機会となった。

取組内容②○施設訪問：年4回

- ・6月、天下茶屋小学校へ散歩
- ・9月、天下茶屋小学校へ津波を想定した避難訓練
- ・12月、天下茶屋小学校で凧あげ
- ・12月、5歳児が天下茶屋小学校の図書室訪問・展覧会鑑賞

○幼小等交流：年4回

- ・10月・2月、5歳児が天下茶屋保育所の5歳児と交流
- ・2月、天下茶屋小学校1年生と交流
- ・2月、橘小学校と交流（全学年）

○教員の参観交流：年5回

- ・4月、天下茶屋小学校と橘小学校へ、昨年度の修了児の入学当初の姿を園長が参観
- ・8月、天下茶屋小学校の1年生の授業を教員が参観
- ・9月、橘小学校の1年生の授業及び特別支援学級を教員が参観
- ・9月、橘小学校の教員が自園の5歳児の姿を参観
- ・11月、本園の子ども展覧会を天下茶屋小学校と橘小学校の教員が鑑賞
- ・2月、なかよし発表会を天下茶屋中学校・小学校・橘小学校の各校長先生が参観（次年度は各教員へも検討）
- ・保育所の5歳児との交流を昨年度よりも1回増やし、一緒に体を動かす遊びを楽しんだり、進学先の小学校ごとに分かれてなかよし遊びをしたりし、地域の同じ年齢の友達に親しめる機会をもった。また、あらゆる機会に小学校を訪問したり、児童と交流したりしたことで、進学への期待を高めることができた。
- ・教員が入学して間もない時期の児童の姿や1年生の授業、特別支援学級の様子を見て、就学までに身に付けるとよい力や姿を知ることができた。また、本園の展覧会に小学校の教員を招いたところ、たくさんの教員が来てくださり、熱心に見たり、話を聞いたりしてくださった。幼稚園教員が学年ごとのねらいや幼児の実態をその都度説明したことで、自身の教育を発信する機会となり、資質向上に

繋がった。園児の姿・実態を知って頂いたり、互いの情報を共有したりすることで、幼稚園から小学校への学びの接続がなめらかになる一歩となった。

取組内容③・毎月の写真掲示、園長室だよりの配布、学期に一度、園での子どもの姿の写真を見てもらうなどし、保護者に情報発信をしたことで、幼稚園教育について理解してもらい、連携を図れるようにした。

- ・保育参観や園行事、PTA 行事の機会に保護者の方に幼稚園に来てもらい、行事に積極的に参加してもらうことで、幼稚園教育に親しみをもってもらえるよう取り組みを工夫した。
- ・保護者参加行事の際に保護者にアンケートを配布し、子どもの様子や感想を聞くようにした。アンケートをとることで保護者の声を知り、日々の保育に生かしたり、保護者から頂いた意見を基に園内の環境を改善したりし、保護者に安心してもらえるようにした。また、アンケートで集まった意見をまとめた手紙を家庭に配布し、他の保護者の意見や幼稚園教育を知ってもらうことで、幼稚園と家庭がより連携できるようにした。
- ・コロナ禍以降5年ぶりに、敬老の日の頃に「一緒に遊びましょう会」を実施し、園児の祖父母に幼稚園に来ていただき、ふれあい遊びをするなどして一緒に楽しい時間を過ごした。普段、なかなか幼稚園に来る機会のない祖父母にも、園児の幼稚園での姿や幼稚園教育を知ってもらうことができた。
- ・お茶会や天下茶屋公園の清掃、「老人憩の家」訪問などを通して、地域の方への親しみや地域を大切にしようとする気持ちが高まり、地域の方にも幼稚園教育を知ってもらうことができた。また、未就園児の園庭開放を実施したり、ホームページを活用したりして情報発信をしたことで、在園児以外の保護者や地域の多くの方に幼稚園教育を知ってもらい、幼稚園に親しんでもらうことができた。

次年度への改善点

取組内容①・降園連絡の際などに、好きな絵本のお気に入りのページや好きな絵本を知らせるなどして、家庭でも絵本に触れられるようにする。

取組内容②・今後さらに児童との直接的な交流を実施し、子どもたちが児童への憧れの気持ちをもったり、進学に対する期待や安心感が高まるようにしたい。また、本園の教員も小学校の展覧会鑑賞や、教職員間の交流を実施し、小学校教育の理解や児童の実態把握に努め、小学校の学びへの接続がなめらかになるようにしていく。

取組内容③・今後も幼稚園教育に親しみをもってもらったり、より多くの方に知ってもらったりすることができるよう、取り組みや情報発信の仕方を工夫し、家庭・地域等と連携を図っていく。